



令和4年7月14日  
浜松市立熊小学校だより  
〈発行者〉校長 西田亮

〈学校教育目標〉「ゆめ」に向かって たくましく生きる子供

〈清竜中学校区の目指す子ども像〉

自分のよさに気づき、他者とのかかわりを大切に、夢に向かって努力する子供



## ◇充実の四小連合教育

6月後半には、5年生の自然教室、1・2年生の合同授業を行いました。自然教室は三ヶ日青年の家で実施し、ウォークラリーやキャンドルセレモニー、ダブルハルカヌー体験を通して多くの友だちとの交流を深めました。2日間の体験を終えた4人の5年生の「楽しかった!」の声にたくましさを感じました。また、1・2年生は二俣小学校で学校探検やドッジビー大会などの活動を通して交流を深めました。普段と違う雰囲気にもすぐに慣れ、積極的に活動する姿が見られました。こうした経験を積んで、人とのかかわりを大切にしながら夢や目標に向かって努力する子供を育てていきたいと考えています。



【5年生 キャンドルセレモニー】



【2年生 昼休みの交流】



【1年生 感想発表】

## ◇「へき地・小規模校教育研修講座」が本校で開催されました

浜松市教育研究会が主催する「へき地・小規模校教育研修講座」が6月24日（金）に上阿多古小と熊小を会場に開催されました。浜松市全域から若手教員等が約40名集まり、授業の様子などを参観しました。参観後のグループ協議では次のような声がありました。

- 子供がのびのびと授業に参加していた。
- 少人数であることのよさを生かした授業だった。
- 子供の発言したことにひと言添えることで、考えを深めたり修正したりして少人数のデメリットを補っていた。
- 少人数だからといって教えすぎたり、手を出しすぎたりせず、考えさせて「待つ」場面があった。
- 子供と先生がやりとりをしながら授業が進んでいるので子供の考えが活かされている。
- 子供と先生の関係がとても温かく、子供の考えを上手に引き出していた。



## 「命について考える日」

浜松市では6月12日を「命について考える日」と位置づけ、どの学校においても児童生徒に命について考える機会を設けています。本校では、子供たちにこの日が設けられた経緯や意義を伝え、命の大切さを考えたり、思いやりの気持ちを育んだりする機会として「人権教室」を実施しました。

### ◇人権教室を実施しました（6/13）

人権擁護委員のみなさんにご協力いただき、自分と立場や考え方が違う相手のことを思いやることの大切さについて考えました。紙芝居「たぬきのてがみ」は低学年の子にとっても分かりやすく、たぬき、おばあさん、郵便屋さんのそれぞれの行動は相手のことを思いやった結果であることを理解し、相手の気持ちを想像することの大切さを教えていただきました。

命の大切さや思いやりについて改めて考えさせられました。これからも想像力でいろいろなことを考えて行動していきたいです。  
〈5年生の感想より〉



### ◇遠足でフルーツパークに行ってきました（7/4）

今年は梅雨明けが早く、6月下旬から暑い日が続きました。当日は、ときおり小雨が降るという天候でしたが、さほど暑くもなく、予定通りの活動ができました。グループ行動で園内を散策し、昼食後は熱帯果樹温室の珍しい果物を見学したり、芝生広場の遊具で遊んだりしてみんなで楽しいひとときを過ごしました。



### ◇夏季休業期間中の「学校閉庁日」を実施します

- ・本年度は、以下の期間が学校閉庁日となります。

8月10日（水）～8月17日（水）

- ・期間中は、原則として学校において教職員が不在となります。
- ・学校閉庁日における緊急時の連絡は、教育委員会教育総務課（457-2401）へ御連絡ください。（時間 8:30～17:15 週休日・年末年始を除く）
- ・なお、夏季休業中の学校での電話対応時間は、8:00～16:30となります。ご理解・ご協力をお願いします。